

会議名	長浜市指定管理者選定委員会第2委員会 (令和3年度第3回会議)
日時	令和3年8月26日(木)
審査対象	長浜市曳山博物館

審査結果概要

- (1) 施設所管課(市民協働部 歴史遺産課)から募集経過説明
- (2) 申請団体(公益財団法人長浜曳山文化協会)による説明、プレゼンテーション
- (3) 質疑応答【以下質疑応答のとおり】
- (4) 採点、集計
1,000点満点中:816点(100点満点中:81.60点)
- (5) 審査【以下審査のとおり】
指定管理者候補として適当と判断する者
所在地 長浜市元浜町14番8号
名称 公益財団法人長浜曳山文化協会
代表者 理事長 大塚 敬一郎
選定にあたっての条件 特になし

質疑応答

- (委員) 収支計画書や財務諸表を見ると、博物館の運営が協会にとって大きな事業かと思う。コロナの影響を除いても来館者等の減少で厳しい状況にあると思うが、3年間指定管理を受けるにあたり、運営や経営で抜本的に改革した部分はあるか。
- (申請者) コロナの影響もあるが、それ以前に経営上の問題で、財団会計、公益会計、法人会計と3つに分かれており、財団会計は黒字を出してはいけない。法人会計は予算的にほとんどなにもみられない。資金繰りが厳しい状況にある。毎月毎月のキャッシュフローが維持できない状況にある。何とかいい方法がないか、市の当局にお願いして、指定管理料の前倒しで支払っていただき今日まで息継ぎをしている。目的財源というか、法人会計に給付金があればいいが、今の時代なかなか難しい面もあるため、なんとかほかの方法でカバーしていただけないかなと思う。
- (委員) 管理運営の中で、従来通り進めていたものを思い切って違うものに変える提案やこれまでと違った取組で収入を生んでいく計画があれば教えていただきたい。
- (申請者) 予算については、募集要項にある予算を参考に作成した。どうしても乖離しているところは、入館者令和2年度は1万3千人と令和4年度は1万4千人とコロナ禍の中での人数を見込んでいる。維持管理は全く削れない。しわ寄せが来るのは、展示業

務で、そこを絞って、ほとんど今年は歴史遺産課の手伝いをいただいて特別展を2回実施する。工夫というのは大変申し訳ないが予算をいただいた中で、絞ってやっている。

(委員) 課題に向けての取組ということに記載もあったので、情報発信も含めてやっていただけるのかなと思う。

(委員) 秋季の企画展の記載は、長浜小学校150周年の日付は10月30日の土曜日であったと思う。記載について、小学校は児童であったと思う。

(委員) 入館者を増やすためにいろんな努力をされているということであるが、今年度実施したYouTubeの配信はどのような反応か。入館者を増やすためにこれまでと違った取組を行っていただければおしえていただきたい。

(申請者) YouTubeをLEDビジョンで映し出して見ていただき、コロナ禍で密を避けるとともに全世界に発信していく取組を実施している。成果として、4月時点で閲覧数は3,390人、6月時点で7,800人がYouTubeを見ていただいている。

その他新しい取組YouTubeやSNSを使った発信をしていきたい。昨年からGoogleにお金を払ってGoogleマップで館内を見れるようにした。曳山博物館のページもでき、質問に対して館長が丁寧に答えている。マスメディアにできるだけ露出していきたい。YouTubeのほかに、理事長からの発案で、ものを展示するだけではなくて、外国人の方もお見えになるということで、多国語化に対応できる方法を指示を受けながら検討を進めている。

(委員) 長浜市挙げての祭りだと思うが、湖北の北のほうに住む子供たちにとって、旧長浜のお祭りというイメージがまだあると思う。YouTube配信やGoogleがあると伝わると思う。長浜の祭りなんだな、子供たち頑張ってるんだな、自分達の同級生が楽しんでいるんだな、ということが伝わる。どんどん発信して行ってほしい。発信をしていくにあたって、職員の数は足りないと感じることはあるか。

(申請者) 小中学生については、博物館にお越しいただいた場合無料としている。各学校の教育事業としてお越しいただいている。逆にこちらから説明に行くこともある。曳山祭りはこういうまつりですよ、ユネスコに登録されていますよ、ということで紹介している。当初は長浜の祭りという雰囲気は確かにあったが、徐々にそういったことを解消すべく、毎年定期的にお越しいただいているので、改善されているのではないかなと思う。

山組の構成の町内だけでは役者ができないということで、西黒田や北郷里の学校の児童にも祭りに参加いただいたり、しゃぎりの稽古にも携わっていただいているなど、徐々に祭りに参加いただいて、子供から大人になったときに祭りの行事に参加いただくという実績もある。YouTubeや館内でスマホを掲げれば

映像や説明出てくるなど、お金があればなんとかできる時代であるが厳しい状況にある。施設そのものが相当古いので、扉を直すのに何千万、シャッターについても口を開いたら何千万とかかるが避けては通れない。お金はない、人も目いっぱい、歴史遺産課から協力もいただいているが、博物館だけでは回っていけないのが実情。お金と人をいただければもっともっと立派な事業ができるのではないかなと自負している。

(委員) YouTube の配信も発案されたということと、多国語化の検討も理事長の発案ということで、理事や関わられる方は自由に意見を提案できるのか、みなさん熱い思いを持っていると感じることはあるのか。

(申請者) 理事長は非常勤で、理事会や評議委員会などいろんな行事の合間を縫って参画いただいている。アイデアをいろいろ発信いただいております、職員も真摯に受け止め、山組関係者や理事も含めて協力体制を組んでいる。

発想力はすごいものがあり、商工会議所の会頭をされているので、いろんな情報を持っておられ、我々の知らないことも積極的に考えなければならぬと。理事長が京都の五条へ行った際に、携帯電話をかざすと自動的に多国語で説明が出てきて、これは絶対やらないといけないと言っておられて、是非ともという思いはある。しかしながら、お金がかかることであり、文化庁の補助の関係もあるが、積極的に取り組んでいきたい。

審査

(委員長) 集計結果を踏まえ、指定管理者候補として公益財団法人 長浜曳山文化協会が適当かどうか意見をお願いします。また、評価できる点、改善できる点があれば意見をお願いします。

(委員) 継続して管理をお願いするにあたって、伝承事業であるとか、そういうものをやっていく中で、この時代において施設の老朽化もあるので、新たな取組にも目を向けていただいて、本来の伝承事業も展開していただければと思う。

(委員) コロナ禍の中での博物館の運営は難しいところがあると思うが、YouTube などの新しい取組をする中、入館はなかなかしていただけない分、博物館外で伝承の取組を前向きにしていると思う。後継者など若い方にそのあたりの発信を続けていただくことが大事であると思う。

(委員) 理事長だけがこの危機的な状況を変えようと感じてるのか、理事のみなさんが関わっているみなさんが考えているのかどうかと感じた。希望的観測をもって頑張ってもらいたいという気持ちはあるが、理事や評議員の年齢も偏っており、危惧するところはあるが、頑張っていたきたい。

指定管理者としては適当であると思うが、新しい風や人が入っ

(委員) たほうが普及していくと思う。次の世代につなげるのであれば、次の世代や若い方の意見が取り入れられるような体制がとられるといいなと感じた。財政が厳しいというところも採点にもでているが、もう少し予算がつけられるものなのか心配になった。今年度新しく YouTube を配信され、今後も新しい違った手法で

(委員長) 入館者を増やすという説明もあったことは真摯に受け止めた。ただ、財務やマンパワーには懸念材料はある。伝統的なものを引き継ぐのは大変であるため、協会としてもご尽力いただけたらと思うし、市のバックアップもいただけたらと思う。この協会しか選択肢はないため、そのあたりは信頼してお任せできればと思う。

それでは、公益財団法人 長浜曳山文化協会を指定管理者候補として決定してよろしいか。

(異議なし)

結論、公益財団法人 長浜曳山文化協会を指定管理者候補とする。